

印刷業界の新技术情報を三美印刷がお届けするメールニュース

sanbi-i-com (No.169)

海賊版サイト対策の動向 ①

漫画村の閉鎖をめぐる顛末

違法コピーした著作物をタダで見せてしまう海賊版サイトの中でもとりわけ有名だった漫画村は2018年4月に閉鎖しましたが、当時の顛末を分かる範囲で振り返ってみます。また、漫画村が正規版(有料版)の売上に及ぼした影響を概観してみます。

1. 漫画村を閉鎖に追い込んだキーワード：ブロッキング

漫画村の作品数は5万点以上に及び、漫画だけでなく、小説やビジネス書等の文字モノもあったそうですが、数多い海賊版サイトの中で漫画村が突出していたのは、アクセス数が膨大だったことです。

出版広報センターの2019年11月27日付の資料の中の「日本国内向け海賊版サイトへの日本からの月間アクセス数上位10サイト」という表によれば、1位のサイトは1658万で、上位10サイトの合計は6551万です。一方、最盛期の漫画村は、政府／知的財産戦略本部の2018年9月の資料によれば、下表の通り、1サイトだけで月間1億を超えていました。かつて例のない規模のサイトだったのです。これほどの数ですから、漫画家や出版社にとっては死活問題でした。

＜最盛期の漫画村の月間アクセス数＞

2017年10月	6,602万	この頃から急増
2017年11月	8,020万	
2017年12月	9,722万	
2018年1月	11,398万	1億を突破
2018年2月	12,431万	
2018年3月	13,458万	
2018年4月	4,569万	サイト閉鎖

●緊急対策(ブロッキングの要請)発表

当然ながら漫画村は社会問題となり、2018年4月13日に政府(知的財産戦略本部・犯罪対策閣僚会議)は緊急対策として「法制度整備が行われるまでの間の臨時的かつ緊急的な措置として、民間事業者による自主的な取組として漫画村、Anitube、Miomioの3サイトにブロッキングを行うことが適当と考えられる」

と発表するに至ります。

民間事業者とはISP(Internet Service Provider、いわゆるプロバイダ)のことで、ブロッキングとはサイトへの接続を遮断することですが、この政府の要請を受け、4月23日にNTTグループが「準備が整い次第3サイトへのブロッキングを実施する」と発表します。ISPの業界団体、日本インターネットプロバイダー協会はブロッキングに反対の姿勢でしたが、NTTグループは「ネット社会の自由やオープン性を守るために、無法状態で放置しておきたくない」との理由で勇断を下したのです。

●漫画村閉鎖とブロッキングのその後

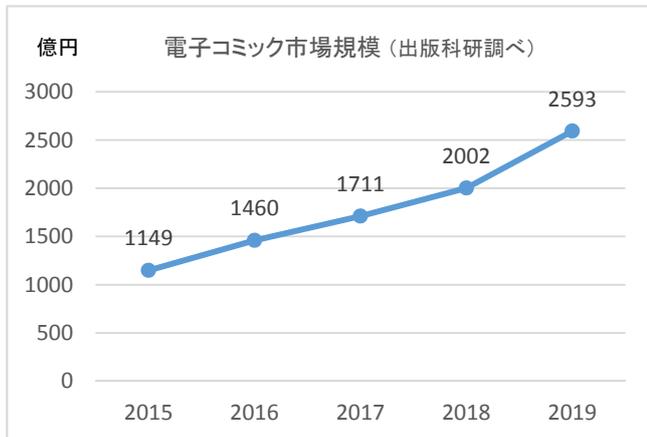
これらの発表に前後して、漫画村自体は4月11日に接続が不安定となり、4月17日には接続不能となっていました。運営側が自ら閉鎖したものと推測されています。また、後日、運営の首謀者は著作権法違反の疑いで逮捕されています。

閉鎖により、ブロッキングは実際には行われなかった訳ですが、「ブロッキングすべし」という政府の姿勢がなかったならば、果たしてこれほど素早く漫画村を閉鎖に追い込むことはできたでしょうか？ おそらくはもっと多くの月日を要しただろうと思います。

ブロッキングの法制化については、2018年6月～10月に計9回開かれた有識者による検討会議で集中的な議論がなされましたが、賛否両論の対立の溝が埋まらず、意見の取りまとめはできませんでした。このため法制化は現在棚上げになっています。

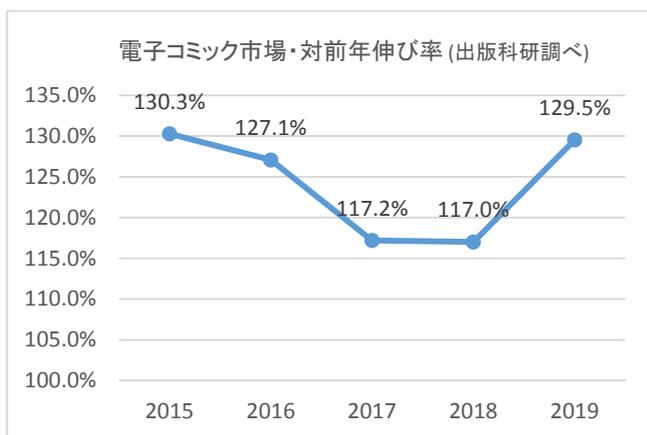
2. 漫画村が正規版の売上に及ぼした影響

漫画村の影響を最も受けたと思われるのは出版社による正規版(有料版)の電子コミックですので、出版科学研究所調べによる電子コミックの市場規模の推移を見てみましょう。



上のグラフからでは「2019 年が好調だったこと」と「2015～2018 も、着実に(ほぼリニアに)伸びている」くらいしか読み取れず、漫画村の影響はよく分かりません。電子コミックは成長市場なので、市場規模(金額)でグラフを描くと、常に右肩上がりです。上下動のないものになってしまうからです。

そこで、上下動を見るため、金額ではなく対前年伸び率でグラフを描いてみましょう。強調のために縦軸の最小値は、0%でなく100%にします。

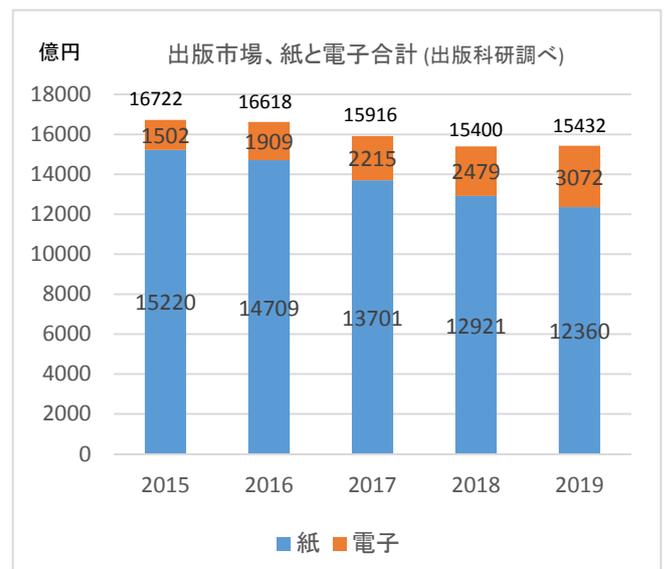


このグラフならば、漫画村の影響が見て取れます。前述のように、漫画村が猛威を振るったのは2017年10月～2018年3月ですが、2017年と2018年の成長

率が、他の年に比べてかなり低くなっています。本来ならば125～130%の潜在成長力があつた市場が、2017～2018は漫画村に妨害されて成長率を落としてしまったように見えます。漫画村の閉鎖で海賊版が一扫された訳ではなく、似たような多数のサイトが依然として存在しているとはいえ、史上最悪とも呼ばれた巨大海賊版サイトが潰れた効果は、2019年の数字に表れていると思います。

●紙の減少を電子の増加が補った

電子コミックが本来の成長軌道に戻ったことは、出版市場全体にも朗報をもたらします。下のグラフをご覧ください。紙と電子を合計した出版市場全体は2015～2018にかけてずっと右肩下がりでしたが、2019年は前年比32億円増の15432億円と僅かながらプラスになりました。紙は12921億円→12360億円と561億円減りましたが、電子出版が2479億円→3072億円と593億円増えたことで、紙のマイナスをカバーしたのです。電子出版の大半は電子コミック(2002億円→2593億円で591億円増)ですので、漫画村の閉鎖がなかったならば、2019年の出版市場全体も依然マイナスだったかもしれません。



(第169回: 2020年3月2日)